

「事業名：災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」 2020年度補助事業の実績・成果

長崎大学 連携市町村：川内村、富岡町、大熊町

連携市町村との協定締結日：平成25年4月20日（川内村）、平成28年9月30日（富岡町）、令和2年7月30日（大熊町）

現地拠点：福島県双葉郡川内村上川内内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会や世界保健機関といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

今年度の活動実績

1. 川内村、富岡町に加えて、住民の帰還が始まった大熊町への復興支援を開始しました。
2. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して福島県下の若者世代を対象とした放射線についての集中セミナーを川内村からオンラインで発信しました。
3. 世界各国の災害・被ばく医療科学の研究者約120名が参加した国際セミナーを川内村・富岡町からオンラインで発信しました。
4. 原発関連企業や原発立地自治体職員等を対象として「原子力災害復興学セミナー」を開催して、原子力災害からの地域復興における住民、行政、専門家や企業等との連携の重要性について学んでいただきました。
5. 動画コンテンツ「長崎大学×川内村 10年の歩み」を作成し、上記セミナーの教材として活用すると同時に動画サイトにも公開しました（<https://www.youtube.com/watch?v=Fw1-XqV-7Rk>）。
6. 教材用ソフトウェア「カワウチ・レジエンス」を作成してバーチャル空間での救急医学、原子力災害医療の実習を可能にしました。



今年度の成果

上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りを「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点にする、という目標に大きく前進することができました。今後も浜通りでの人材育成に尽力していきます。